



INDEX

P 1 - 代表挨拶

P 2、3 - 活動交流事業
「青少年団体を訪ねて」

P 4 - 活動交流事業
「活動交流ミーティング」のお知らせ
メダカの池復活大作戦 2009 !

「自立」を考えてみましょう

京都青少年ゆめネットワーク代表 神崎清一

「若い人はいいなあ」「やりたいことができて羨ましい」「もう一度若いときに戻りたいわ」と、年長者の方は良く口にします。それは、自分自身の楽しかった時代への回帰、出来なかったことをやってみたい、あるいはやり直したいという気持ちからでしょうか。夢を若い人に託し、期待を込めての発言もされます。

一方で「今の若い者は」という言葉から始まる愚痴や批判も口にします。多くは社会規範から逸脱したモラルに対しての指摘がされます。また、社会や他者に対しての甘えがあるということへの危惧や批判をすることがあります。

さて、わたしたちの「ゆめっと京都」は青少年の限らない可能性と創造力、主体性を引き出すために

「自立＝青少年の自発的な活動により、

共生＝府内の多くの仲間と共に、

貢献＝地域づくりへの参画など積極的に社会に働きかけていく」

ことをめざして設立されました。

この中の「自立」を辞書で引きますと、「依存・受け身から脱し、主体的に自分の足で立つこと」とし、「人生を豊かにする条件は、経済的・健康的・精神的自立」の3つと記されています。

現在の社会の状況は厳しいものがあり、いわゆる格差社会の中では負のスパイラルからの脱出は簡単なことではない方々が自立して生きることが難しくなっています。ネット難民に代表される若者も同様です。更に続けて、この辞書は、「経済的・健康的に恵まれても、精神の自立なしでは日常を無難に生きているというだけで、決して満たされた豊かさにはなりません。」とし「精神の自立、心の自立こそが、豊かさのための必要にして且つ十分条件」としてしています。

人は一人で生きるものでなく、寄り添って生きることが出来るものでありますが、一方で各人が与えられ固有に持っている小さな才能を磨き、また磨きあうことで、他者や社会に還元することが本来の自立ではないでしょうか。

20歳で認められている選挙権を始めとしたいくつかの権利を、18歳に引き下げてはという議論が多くなされています。これには当然大きな義務が伴いますが、問われるのは「自立」です。

政治に対する知識、様々な契約の可否、職業意識などを始めとして、社会とのかかわりが問われます。

経済状況はもとより、これまで誰もが経験したことのない「多文化社会」「人口減少と高齢化社会」の中で、新たな社会構築が求められています。ビジネスモデルを求めるのではなく、若者が自ら次の社会を作り出すことが求められているのではないのでしょうか。

ゆめっとの事業自体は大きなものではありませんが、加盟されている団体や個人の皆様とともに、社会を創り出すことができればと考えています。